

日本胃癌学会第 11 回市民公開講座を開催して

札幌医科大学第一内科

篠村 恭久

平成 23 年 11 月 19 日（土）13 時 30 分より札幌市中央区にある札幌医科大学講堂にて第 11 回日本胃癌学会市民公開講座を開催しました。

今回は、「知っておきたい胃がんのお話—予防と治療の最新情報—」をテーマとして、4 人の胃癌診療の専門家の先生にご講演いただきました。道外からは本学会市民公開講座担当理事の大阪府立成人病センター診療局長飯石博康先生にお越しいただき、北海道内からは北海道大学病院光学医療診療部診療教授加藤元嗣先生と KKR 札幌医療センター斗南病院副院長奥芝俊一先生、札幌医科大学第一外科講師信岡隆幸先生の 3 人の先生にご講演をいただきました。4 人の講師の先生には、第一部では 30 分ずつご講演いただき、第二部では市民の皆様からのご質問にご回答いただきました。

第一部の前半は私が司会と務め、加藤元嗣先生には「胃がんの予防策」というタイトルでピロリ菌除菌による一次予防を中心にご講演いただき、次いで飯石浩康先生には「胃がんの内視鏡診療」というタイトルで、内視鏡による胃がん早期発見技術の進歩と内視鏡治療の現状についてご講演いただきました。後半は、札幌医科大学医療人育成センター教授傳野隆一先生のご司会で、奥芝俊一先生に「患者さんにやさしい胃がんの手術—腹腔鏡手術—」というタイトルで、近年、普及してきている腹腔鏡手術についてご講演いただき、次いで信岡隆幸先生に「進行胃がんに対する最近の治療法—抗がん剤と手術について—」というタイトルで、抗がん剤治療と外科治療を組み合わせた進行胃がんの治療

を中心にご講演いただきました。

第二部では、傳野隆一先生と私で司会を務め、4人の講師の先生に登壇していただき、受け付けに設置した質問箱に寄せられた会場の皆様からの質問にお答えいただきました。今回の市民公開講座の広報としては札幌近郊の医療機関にポスター等の配布と新聞広告を行い、事前登録なしの自由参加としたため、当日まで何人の参加があるか不安でしたが、60名の市民の皆様にご参加いただきました。参加人数はそれほど多くはありませんでしたが、多くの質問をいただき、参加された皆様の胃がんに対する関心の高さがうかがわれました。ピロリ除菌については、「保険診療外で除菌を行っている施設はどこで、どの位の費用がかかるのか」、「除菌薬の副作用はどうか」、「5歳以下では除菌ができないのか」、「主治医には症状がなければ除菌せずに放置してよいといわれているがどうか」、など多くの質問がありました。内視鏡診療については、「胃カメラの鎮静薬とコストについて知りたい」、「胃のポリープは、内視鏡で良性か悪性かをどのように見分けるのか」などの質問がありました。外科治療および抗がん剤治療については、「術後の再発予防では1年間抗がん剤を服用する以外の予防策はあるのか」、「胃がんの抗がん剤治療はいつまで続ければよいのか」、「今後、新たに使用される見込みの抗がん剤や分子標的薬はどんなものがあり、いつ頃から使われるようになるのか」などの質問がありました。それぞれについて4人の講師の先生方から丁寧にご回答いただきました。予想以上に多くの質問があり、予定の時間をオーバーしてしまいましたが、会場の皆様には最後まで熱心にご清聴いただきました。なお、終了後、札幌から遠く離れたオホーツク地域から参加された方が相談に来られ、講師の先生に相談に乗っていただきました。

今回は4人の講師の先生にはすばらしいご講演をいただき、参加された皆様には有意義な時間を過ごしていただいたと確信しております。日本胃癌学会市

民公開講座を北海道で開催するのは今回が初めてでありましたが、無事終了することができて世話人として大変うれしく思っております。ご講演をいただきました先生方ならびに関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。